



＼(^o^)／和牛業界最高の無料情報誌を目指します！！

➤ 広島和牛 侍ビーフ元就 デビュー！ ～ メキシコ交流ディナーのメイン料理に提供 ～

平成 30 年 5 月 7 日（月）にホテルグランヴィア広島（広島市南区）において、「広島和牛 元就」が国際交流のディナーで採用され、参加者に振る舞われました。

このディナーは、2020 東京オリンピック・パラリンピックのメキシコチーム事前合宿受入れに向けた機運醸成を図るため、メキシコ・グアナファト州からメキシコ料理人などを招いた文化交流の環として開催されました。来日した文化交流団は、ゴールデンウィーク中にフラワーフェスティバルのパレードやステージでメキシコ料理の試食、音楽隊の演奏、伝統舞踏を披露するなどメキシコ文化を広島県民に示していただきました。

ディナーは、メキシコで著名な料理人と広島県産食材がコラボレーションした贅沢なメニューで構成され、メインディッシュとして広島和牛「侍ビーフ元就」ボラッチャソースかけ（和牛の甘味のある脂に合う酸味のあるソース）が提供され、広島県知事、市町首長、

県市町議会、民間企業幹部らが文化交流を図りました。

料理を担当したシェフのヴィジャセニョールさんは、「メキシコでも和牛は食べたことがあるが、今回の広島和牛は、うま味が素晴らしく、これまで食べた中で一番。是非、自分のレストランで使いたい。メキシコでも和牛は人気。必ず売れる！」と最高の賛辞をいただくことができました。また、「このように素晴らしいお肉を提供していただいたので、メキシコに帰っても広島和牛の良さを伝えたい。」とのコメントをいただくことができ、広報活動の成果をあげられました。

メキシコでは、神戸ビーフの知名度が別格で、アメリカやメキシコの一般の消費者は神戸ビーフだけが和牛のようなイメージを持っているとのことで、正しい知識の普及が必要であることを再認識することもできました。

《メキシコ グアナファト州の概要》

- ・位置 メキシコ中央高地
- ・州都 グアナファト
- ・面積 30,491 平方キロメートル
- ・人口 549 万人（2011 年）
- ・GDP 4,787 億ペソ（2011 年）
- ・天然資源 銀、錫、金、銅、鉛、水銀、オパール
- ・主要産業 農業、畜業、鉱業、繊維、皮革、自動車



「侍 BEEF 元就」のロゴ。インバウンド需要への対応も整っています。



素材の味を大切に料理。酸味のあるソースで和牛を提供。



メキシコグアナファト州政府日本代表のゴンザレスさん（前列右）、湯崎広島県知事（前列中）、メキシコ大使館のデーロンさん（前列左）と同席したみなさん。



メキシコで著名な料理人のファン・エミリオ・ヴィジャセニョールさん（右）と県担当者（中）と全農担当者（左）。ディナー前に広島和牛の歴史、伝統と取組を説明。蔓牛や改良の取組について熱心に聞取られました。

➤ レストランひらまつ ～ 有名シェフの食材視察とディナー ～

平成 30 年 5 月 15 日（火）に、東京を拠点に日本を代表する最高級フランス料理店を多数展開する（株）ひらまつで店主兼料理長を務める広島出身の平松大樹シェフが庄原市を訪問し、食材として比婆牛を視察・調達されました。

今回の視察・食材調達は 2 日間にわたり行われ、野菜、チーズ、魚、肉の生産現場等を訪問し、それぞれのこだわりを聞くなどして料理へのヒントを探されました。

この視察で調達された食材は、6 月 5 日（火）にレストランひらまつ（東京都港区西麻布）で湯崎広島県知事や生産者に参加いただき、広島県にフォーカスしたガラ（特別な）ディナーパーティーが開催され、広島県の PR が行われることとなっています。ディナーでは絵画のような美しさ、立ち上る薫り高さ、繊細な味わい……。『総合芸術としての料理』が愉しめる空間に比婆牛が登場します。

《レストランひらまつ・（株）ひらまつの概要》

- ・1982 年創業。東証 1 部上場 年商 115 億円 従業員数 659 人
- ・国内 38 店舗、海外 1 店舗
- ・フランス料理、イタリア料理、カフェなど東京から全国に展開中
- ・シェフの平松大樹さんは、1981 年生まれ、広島市出身。
- ・2012 年、30 歳の時に「レストランひらまつ広尾」料理長就任。現在に至る。



ファミリーマート A コープ西城店：コンビニの中で精肉を対面販売しています。最高品質の広島和牛がリーズナブルにお求め可能です



比婆牛のヒレ肉、モモ肉を試食する平松シェフ（左）。脂があっさりして、ミルクィなうま味と独特の香りがあると高く評価。

▶ 今年度の広島和牛の取組方針が決定しました！ ～ 広島牛振興協議会等の総会開催 ～

平成 30 年 5 月 23 日（水）に広島牛振興協議会は、今年度の総会を開催し、今年度の広島和牛増頭対策等を決定しました。農協等を通じて、申請・交付等が行われることとなります。

●子牛導入

導入後の繁殖頭数	助成単価	対象月齢	助成条件	
			父牛	母牛
増頭なら	70,000円以内	12ヶ月未満	どちらかのBMS育種価が平均以上	
維持でも	30,000円以内			

●成牛導入

導入後の繁殖頭数	助成単価	対象月齢
増頭もしくは維持なら	15,000円以内	12ヶ月以上96ヶ月未満

●保留

助成単価	対象月齢	助成条件	
		父牛	母又は母方祖母
25,000円以内	12ヶ月以上	BMS育種価が平均以上	BMS育種価が1.0σ以上
	15ヶ月以内	広島県種雄牛造成に利用したもの	

※導入事業の繁殖頭数はH30年4月1日を期首、H31年3月31日を期末としてカウントします。

育種価(BMS)条件の参考値 (2017年前期育種価供用雌牛の値)	平均	1.0σ
		1.20

●育種牛認定【New】

助成対象	助成単価
育種専門部会が広島県育種牛として認定	30,000円以内

※育種牛認定は、育種推進委員会で承認された後に実施する事となります。

●生産性・技術向上

事業内容	実施時期
寄生虫の駆虫(イベルメクチン製剤)	生産検査時
繁殖カレンダーの配布	12月

●後代検定推進

助成対象	助成単価	対象父牛
子牛市場から導入した後代検定用子牛	20,000円	豊神山, 花勝百合

●放牧

事業内容	助成内容
放牧キットの貸し出し	6セットの貸し出し
電気柵購入助成	上限50,000円/セット
放牧牛のレンタル助成	上限100,000円/セット
放牧牛の購入助成	上限50,000円/セット

●指定交配

助成対象	助成単価
種雄牛造成指定交配	10,000円
系統再構築交配推進 ※	1,000円

※系統再構築交配推進の助成内容等
 ・広島県有種雄牛の和牛繁殖牛への交配。
 ・1回の交配につき1,000円助成。同一雌牛2回まで。
 ・授精証明書(ストロー, 精液証明書添付)をJAを経由して申請。

【次号予告】

第12回全国和牛能力共進会広島県対策協議会が5月23日付けで設立されました。出品区分など全共の概要等と併せて皆様にご案内いたします！

▶ 税金のおさらい ～ 肉用牛免税特例 ～

「肉用牛売却所得の免税制度」(肉用牛売却所得の課税特例措置)は、肥育期間が長く、経営のリスクを抱えている事情を鑑みて昭和43年に期間限定で特別な措置として制度化されましたが、延長を積み重ねて現在に至っています。その概要とポイントと今後の展開について考えてみましょう。

【特例措置の概要】

- ・個人の場合：対象の肉用牛の売却により得られた所得に対する所得税及び住民税が免税。
- ・法人の場合：対象の肉用牛の売却による利益の額に相当する金額を損金に算入。

(ただし100万円以上で売却された肉用種の牛は課税対象になるなど適用除外あり)

【ポイント】

- ・和牛では、100万円未満で三次家畜市場、広島食肉市場で売却した子牛や肥育牛は、所得税や法人税、県民税が免税されたり、一定の

利益には課税されない仕組みとなっており、「形を変えた補助金」とも言われています。特例には、対象者要件、対象肉用牛要件、対象売却場所・方法などがありますが、ここでは紙面の関係上説明は割愛します。

【今後の展開】

昨今、和牛の肥育牛は、枝肉重量や脂肪交雑の改良が進み、1頭の売却価格が100万円を超えることが多くなりました。(ほとんど100万円以上という経営者の方もたくさんいらっしゃると思います。)

今後は、難解と言われる税制を税理士さんや税務署に相談・確認しながら財務管理を行うことが一層求められると言えます。

また、平成31(2019)年10月1日からは消費税率が8%から10%に引き上げられます。今後開催される税や財務に関する研修会やセミナーに積極的に参加してください。

広島和牛NEWSでもその開催情報等をお知らせする予定です。

【トピックス】

◆平成30年5月22日(火)に「平成29年度食料・農業・農村白書」を農林水産省が公表しました。

国は、近年、若手の新規就農者数が高水準で推移し、付加価値の向上や規模拡大等を通じた生産性の向上に挑戦し、効率的かつ安定的な農業経営の実現が重要で、若手農業者に焦点を当てた施策の展開方向を考察しています。

【現状分析】若手農業者は1,000万円以上の売り上げ割合が多い。(45.2%)、常雇いを雇い入れた若手農業者はここ10年で倍増。労働時間短縮のための投資が進展し、規模拡大や高い農業所得につながっている。

【施策の展開方向】農業経営の法人化、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット化)、ロボット等を取り入れた革新的技術の開発・導入などを後押しできる環境づくりが重要としています。

次世代を担う農業者の育成を中核として国の施策展開が進められます。広島和牛においても次世代を託せる人材を育成・確保し、盤石な生産基盤の確立を、あらゆる有効手段を講じて進めていくことが求められています。農業者、生産者団体、他産業、教育、研究、行政の息の合った取組みが肝要です。

お知らせ(^^) 広島和牛NEWSがWebで閲覧可能になりました⇒「広島和牛NEWS」で検索！

次回は、7月1日発行予定！